



掲載に際して(二〇〇八年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 後藤, 秋正 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7315

二〇〇八年度卒業論文要旨集

掲載に際して

後藤 秋正

あいの里もライラックが咲き、初夏らしいよそおいになってきた。三月に巣立った学生諸君は、それぞれの持ち場で元気に動き回っていることだろう。

卒論は提出してしまえばそれで終わりかもしれない。しかし、苦勞して資料を集め、いかに論旨を組み立てて説得力のある論文にするか、締め切りに追われながら知恵を絞った記憶は、そんなに簡単に消え去るものではないだろう。

筆者も四十年近く前に、「曹植詩研究」という恥多き卒論を提出して学部を終えたが、指導してくださったM先生（当時は助手だったが、今は某大学の名誉教授だ）、審査してくださったS先生とY先生（お二人とも故人となられた）のお顔とともに、執筆時のことをときおり思い出す。気の利いた文章を思いついたらすぐに書き留められるように、あちこちにメモ用紙を置いていたことなどとともに……。

ワープロでの提出を認めてほしいという声も聞かれるが、正しい文字を丁寧に書くという基本的なことを確認するのも卒論執筆の目的なのだから、文字で苦勞したことも思い出の中に加えてほしいと切に思う。